

## ガビチョウの繁殖生態の研究

羅時有・王艶・沈君梁

(陝西省動物研究所)

訳 福井和二

摘要 本文はガビチョウの繁殖生態に関する資料について述べる。陝西省泰嶺地区では、ガビチョウは4~7月に繁殖し、雌雄共同で営巣し、巣の多くは枯れ草に覆われた地面に作られる。繁殖は年1回、産卵は4~5卵、雌のみが抱卵し、期間は14~15日、育雛は雌雄共同で行なわれ、13日ほどで巣立ちする。雛の成長にもなう形態の変化、体重、体長、嘴峰、翼長、尾長、跗蹠長等の変化について記述する。

1982年、1983年4~7月、陝西省の周至と太白においてガビチョウ (*Gorrolax canorus*) の繁殖生態の観察を行なったので報告する。

### 繁殖期と営巣

ガビチョウは山の斜面、住居地近くの灌木林に生息し、4月の初めころ林縁部の灌木叢、あるいは農耕地周辺で木の葉や枯れ草などを巣材に営巣し、7月上旬巣立ちした幼鳥を見ることができる。したがって繁殖期間は4月から7月である。

雌雄が営巣に参加し、当地で見られる巣のほとんどは地上に作られる。巣の2~3面が茂みに覆われ、上を枝葉が深く覆っており、他の一面にはワラビ (*Pteridium*)、ヨモギ (*Ariemisia*)、カヤツリグサ (*Cyperus*) などで閉ざされているが、比較的ひらけた場所に面している。巣は碗状、外壁は細い草や根、柔らかい茎やコナラ (*Quercus* sp) などの葉や油松 (*pinus tabulaeformis*) の針葉によって作られている。巣の大きさは外径20×17cm、内径13×12cm、高さ11cm、深さ8.5cmであった。

### 産卵と孵化

産卵は毎日1個、1巣4~5個、卵は楕円形で、空色である。重量は平均6.9g(6.8~7.0g)、大きさは27.8(27.1~28.5)×21.6(21.1~21.8)mm。

産卵を終えるとただちに抱卵を開始する。抱卵は雌のみが行なう。雄は巣の周囲で警戒にあたる。親鳥は強く巣に執着する。何回かの実験で明かになったことは、巣のすぐ前まで手を差し出すと、親鳥は茂みの中に逃げ込む。巣を離れるときには鳴き声をたてず、遠くへは飛び去らない。人が離れた後3~5分で巣の中へ戻ってくる。抱卵時の卵の配列は1, 2, 1で、人が1列または2列に置き換える攪乱をしても、親鳥が帰巣後すぐに覗くと、その配列は1, 2, 1となっていた。産卵から抱卵期間は、ただ雌だけが巣についている。

1号巣の抱卵状況を2日にわたって観察した。親鳥の一日(6:00~20:00)の在巣時間合計575~752分。一回の最長在巣時間215分、最短在巣時間15分、一日の巣を空けた時間の合計88~205分。最も長く巣を空けていた時間133分、最も短く巣を空けた時間1分。長雨の時は親鳥の在巣時間は比較的長時間となる。4号巣の観察によると、抱卵期間は15日ほどであった。

4巣(17卵)の観察によると、ガビチョウの孵化率は50~100%、平均82.5%。1巣の平均卵数4.25、孵化率82.5%。毎年ガビチョウが当地で産卵する1巣の卵数に、Niclの公式を用いた、繁殖力=平均卵数/每巣×卵化率×巣数/毎年/2(1対成鳥) 計算すると、その繁殖力は1.75羽と

なる。

### 育雛

1号巢の観察によると、育雛は雌雄共同であたり、雛が2日齢に達すると育雛を開始する。育雛期の夜間は雌のみが巢の中で過ごす。育雛のための餌探しをする範囲も雌雄によって異なる。雌は巢の付近の茂みの中や地上で餌を採る。しかし、雄はたまたま巢の付近で餌を採ること以外は、常に巢から250~350mくらい離れた山あいの草地で餌を採っていた。雌は育雛中は鳴かない。危険に驚いて巢を飛び出すときでも鳴かない。まれに巢の近くで鳴くことがあっても“チツチ、チャツチャ”という低い声で鳴く。雄は育雛時も、巢の近くの樹上で、あるいは、灌木林の樹端で囀り続けた後、採食のため飛び立ってゆく。

連続数日間の観察によると、育雛は、太陽光が巢に達するころ、すなわち、8:30~9:30の間に始まる。6月17日日中(6:30~19:30)の給餌回数は84回、平均毎時7回で、給餌往復回数が最も頻繁となるのは12:00~13:00で、次いで多くなる時間帯は16:00~17:00であった。

### 雛の成長

1. 雛の成活率\*；雛の成活率は平均75%，親との比は1:1.24，4巢の卵数は計17個，雛の巣立ち数10羽，わずかに卵数の58.8%であった。

2. 雛の形態；特徴とその変化；孵化したばかりの雛は，わずかに頸が曲がり，両眼は閉じたまま，全身絨毛のない裸体，体は紅色を呈し，腹部が球状に突起して，色は淡白，鳴くことはない。嘴に手を触れるとわずかに頭をあげ，口を閉じたまま餌を求める。2日齢の雛は，目はまだ開かず，頭，肩，背，股などの羽域は全体に黒くなり，羽軸の芽が見えてくる。翼の羽域は風切羽の羽鞘が1.5mmほど櫛状に並んでいる。4日齢では，尾羽，小翼羽，耳羽を除いて，その他の全域で均一に羽鞘が生える。5日齢で，尾羽，小翼羽，耳羽の羽鞘がそろって生え始める。6日齢において巢の中に鳴き声を聞くことができる。7日齢で開眼，各羽毛の先端が房状に開き始め，全体に茶褐色になる。8日齢で尾羽の先端が開き始め，上体の羽毛は頸，背中の裸出部を除いて，均等に羽が覆い始める。雛は立ち上がり，白い眉斑が現われる。13日齢で雛は巣立ちをする(何かに驚いたりすると1~2日巣立ちが早まることがある)。巣立ち後は飛翔も採食能力も弱く，親鳥に連れられて餌探しをしている。それゆえ繁殖後期は親鳥と灌木の中を縫うように往き来しているのを見かける。

3. 雛の成長；表に見るように雛の体長は日を追って増加し，増加値は5~6日齢が他に比べて大きくなっている。7~8日齢ではそれほど増えていない，9日めから巣立ちまでの体長の増加は，時により多少の差がある。雛の翼長は4日齢以後急速に成長が速くなり，5日齢では12.9mmも成長し，在巢期間中成長度が最も大きい。13日齢では66mmと，成鳥の約70%以上に達する。尾羽の成長は8日齢から始まり，13日にはわずか20.7mmしか成長せず，成鳥の約20%である。嘴峰，跗蹠は毎日増加し，13日齢で嘴峰16mm，成鳥の約72%，跗蹠は34mm，成鳥の約88%となる。

表 ガビチョウ雛鳥の体重, 体長および外部器官の成長

日齡	体重 g	体長 mm	翼長 mm	跗蹠 mm	尾長 mm	嘴峰 mm
2	22.0					
4	21.5	76.8	17.3	19.1		10.4
5	23.0	78.8	30.2	23.7		11.0
6	26.1	86.6	40.7	25.0		11.6
7	31.3	90.0	43.9	28.3		12.1
8	33.0	90.0	51.0	28.6	6.7	12.1
9	33.7	91.7	58.0	33.0	10.5	13.0
11	31.6	92.0	58.0	34.0	12.0	13.0
13	38.6	100.0	66.0	34.0	20.7	16.0

訳注

\* 雛の生活率, 何を意味するのか不明